

会議録

令和 7 年 9 月 17 日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和 7 年度第 4 回定例会
開催日時	令和 7 年 8 月 20 日(水) 午後 6 時 30 分 から 午後 9 時 00 分 まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委 員：小須田厚子(会長)、松本靜(副会長)、澤井稔、小池教之、渡邊耕造、下坂百合、花房敦子、ギログリー江美、鈴木明美、小林大介、荒井容子、坂内夏子 事務局：近藤館長、市川事業係長(柳沢)、根岸分館長(芝久保)、菅野分館長(谷戸)、一之瀬分館長(保谷駅前)、三城事業係主任
欠席者	小林資郷、亀倉康悦、山本分館長(田無)
議題	1 審議事項 (1) 令和 7 年度第 2 回定例会会議録（案）について（資料 1） (2) 令和 7 年度第 3 回定例会会議録（案）について 2 主要事業について (1) 令和 7 年度公民館主催事業報告について（資料 2） (2) 令和 7 年度公民館主催事業計画について（資料 3） 3 報告事項 (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 (4) 令和 6 年度西東京市公民館事業評価表について 4 事務連絡及び情報交換 (1) 令和 7 年度第 1 回利用者懇談会について 公民館サポーター 他 (2) 公民館運営審議会紹介紙について (3) その他 新公共施設予約システムの抽選数と随時予約数 (4) 令和 7 年度第 3 回定例会の開催について
資料	【配付資料】 資料 1 令和 7 年度第 2 回定例会会議録（案） 資料 2 令和 7 年度公民館主催事業報告書 資料 3 令和 7 年度公民館主催事業計画書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(3名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	
1 審議事項 (1) 令和 7 年度第 2 回定例会会議録（案）について（資料 1） ● 令和 7 年度第 2 回定例会会議録（案）について承認 (2) 令和 7 年度第 3 回定例会会議録（案）について ● 令和 7 年度第 3 回定例会会議録（案）については、各自内容を確認し 1 週間以内を目途に修正意見を事務局に送ることとする。	
2 主催事業について (1) 令和 7 年度公民館主催事業報告について（資料 2）	

○事業係長

今回の報告は、暮らしに役立つ実学講座スマホの安全な使い方教えます（芝久保）の1件だが、東京都もデジタルデバイド対策に力を入れている。昨年度から都が主催する高齢者向けのスマートフォン相談会を、市内全ての公民館で実施している。毎回すぐに定員が埋まってしまう盛況ぶりでニーズの高さを感じている。今年度はさらに4回連続講座も各館で実施する予定。公民館主催事業としては、公民館らしさを生かして参加者同士のつながりや講座後のフォローも意識しながら実施している。今後も継続して実施していきたいと考えている。

○A委員

デジタルデバイドは、インターネット等の情報通信技術を利用できる者とできない者の間に生じる情報格差であり、そこから社会的に分断が起こる。公民館独自の関わり方の中で、主催事業として反省と課題中でも特定非営利活動法人NPO推進センターセプロスの手厚い指導など、1回で終わるのではなく、分からぬときに直ぐに聞ける関係性を築き、講師が直ぐに対応できる講座を引き続き公民館でやってほしい。との参加者の声がある。

○B委員

今年度も暮らしに役立つ実学講座（芝久保）に、セプロスが講師として関わらせていただいた。東京都高齢者向けスマートフォン利用普及啓発事業などの影響もあり、新規加入者が増えた。

○C委員

インターネットを使って文書のやり取りをしているが、入手できる情報の量や質、利用できるサービスに差が生まれ、見られない人が多くいる。高齢者ほどインターネットやスマート・パソコンなどを利用できる層と、利用できない層との間に生まれるデジタルデバイドがある。また、セキュリティリテラシーの不足により、有害情報に接触したり、詐欺被害に遭ったりするリスクが高まるなど、その様な課題を公民館からも伝えていく必要があると思う。

○B委員

スマホを使いこなせない高齢者が1人30分の短時間で、二次元コードの読み込み方法、Wi-Fiの接続方法などすべての使い方を覚えるのは難しい。西東京市の公民館講座では、4回の連続講座の中で災害情報や避難情報、安否確認などの重要な情報を得られないなど、情報弱者に生じる問題を解消するため、必ず避難所の情報発信操作、防災アプリの使い方などの内容を盛り込み、目的をもって実施している。

○D委員

スマートフォンを使いこなせない高齢者はどんなことに困っているのか。その様なデータはあるのか。また、家族や地域社会によるサポートによって、高齢者やデジタル機器に不慣れな人々が、スマートフォンを活用することで行政サービスやデジタルコミュニケーションにアクセスできるようになり、社会的な孤立から脱却したり、生活の利便性が向上したりする成功体験は、情報格差の解消になる。今後、公民館講座の取組に向けたヒントとして役立つのではないか。

(2) 令和7年度公民館主催事業計画について（資料3）

○E委員

各館からピックアップした公民館主催事業計画について、谷戸公民館とひばりが丘公民館から説明していただきたい。

○分館長（谷戸）

毎年実施している中高生が企画する小学生向けの防災講座「めざせ！防災マスター」（谷戸）は、4回目を迎える。講座企画の話し合いや準備を通して、今年度は、災害時の水や電気などの困りごと対処方法（案）として、防災の大切さや災害への備えなど、ボランティアスタッフとして谷戸まつりに参加した中高生などと一緒に、小学生でもわかりやすい一人ひとりに合わせた説明や実際に行動ができるところを大切にした講座内容となっている。

○事業係長

子どもの声の聴き方、伝え方のヒント子育ての不安や負担を減らすコミュニケーション保育付き（ひばりが丘）について、事業の趣旨から講座名を、本年度の事業計画書上の「女性のための講座」から「子育て中の人のための講座」変更している。発達障害という、多くの人が気になっているが、まだまだ偏見も根強く夫婦間でも見解が異なる問題を取り上げる。土日に夫婦で参加

できる4回講座という構成で、近年の保育環境の充実により平日の長期講座の参加者が減少する中、現在のニーズに対応するという意味で、公民館の学習支援保育として新たな試みでもある。

○D委員

【共催事業】BOSAI カフェ講座能登半島地震での支援活動から考える我が街の地域防災（柳沢）について、中高生が防災に关心を持って、次世代に分かりやすく説明する講座を是非、大人たちにも見てほしい。講座の周知もより多くの大人たちが参加するように、学校の中でも学校公開日などに成果発表などを行い、興味が増える子どもたちが増えれば、大人たちの意識も上がるのではないか。

○事業係長

防災講座Ⅰ防災語り場ひだまり（ひばりが丘）について、ワークショップを多めにした講座とした。講座が終わった後も関係性をつくりあげながら、BOSAI カフェ講座（柳沢）のように一般の方も交えた運営ができればと考えている。また、学校や中原小学校避難所運営協議会とのコラボができるように、地域で防災に关心のある大人たちと一緒に学び、活動の循環ができるように準備をしている。

○A委員

毎年、それぞれの公民館が防災について取り組んでおり、子どもたちにも伝わる内容の講座で感謝したい。また、防災のノウハウについての講座だけでなく、防災を含めて対話したり、語り合いたいなど公民館らしい内容になっている。また、子育て中の人のための講座保育付き（ひばりが丘）について、今回、ほかの子どもよりも発達が気がかりな親の悩みにスポットをあてた短期講座となっている。取っ掛かりとして、どのような参加者があったのかを含めて、後日報告をしていただきたい。基本方針に基づき設定した事業内容に、小学生をもつ親向けを対象としているが、実際は0歳児から2歳児の発達過程でコミュニケーションの遅れ（言葉の発達が遅い、身体的な落ち着きがないなど）の兆候があったりする。その後、保育園や幼稚園に行って発達が他の子と違うなどそれぞの悩みが違う。日々の子どもの成長の中で悩んでいる親が多くいる中、今後、年齢層に合わせた課題別の講座が必要となる。また、この内容で保育付き講座を実施すると集団生活の中で子どもの動きが激しかったり、この子に合わせた保育などハードルが高い保育になる可能性があるので、どのような対策を行うか気になる。事前に保護者から情緒面やコミュニケーション面で気になる行動をすることが多いなど、特定のものに執着するこだわり行動の対応方法を詳細に伺い、など、公民館保育員との打ち合わせをしていただきたい。

○事業係長

障害特性に応じた知識や支援技術を学ぶ研修などが、10月の講座実施までに公民館保育員にできるのか、担当職員と検討したい。

○C委員

子育て中の人のための講座（ひばりが丘）の計画書に「心理巡回」とあるが何か。

○事業係長

発達障害など、特別な指導・支援を必要とする児童生徒の生活面や学習面の困難を把握し、学校や教員へ専門的な指導・助言を行う専門家である巡回心理士を指す。

○C委員

中高生が企画する小学生向けの防災講座（谷戸）について、参加しやすいように中高生のボランティアが講座当日のみの参加も可能としているが、お互いの関係性は大丈夫か。また、事業の目的にボランティアで企画する人たちが、子どもたちがどう育つかなどの意識が強く出ている。中高生だけでなく、色々な講座で参加者自身が担い手になっていく仕掛けの講座も、もっとあってよいと思う。今回の企画は、他の人たちのために自分たちも学びながら企画するなど質の高い事業だと思う。ぜひ色々な分野の講座で展開してほしい。

○E委員

子育て中の人のための講座（ひばりが丘）について、事業名に発達障害の文字がないことで、対象者を限定せず、様々な方が参加者できることが良いと思う。事業内容を見ると日常生活でお子さんの成長や発達が気になる方からの問い合わせが多くなるのではないか。子どもの発育・発達に関する相談窓口が分からぬ親に対して、福祉施設や学校などに相談ではなく、地域の公民館が言葉やからだの発達全般に関するなどを講座として取り組むことは良いことだと思う。ま

た、趣味講座「麻ひも×手織り」の魅力～輪織りを楽しもう～（ひばりが丘）について、身近にあるダンボールを加工して織り機を作り、最終的にひばりが丘公民館フェスティバルに作品を展示するなど、とても楽しそうな内容となっている。

○A委員

趣味講座（ひばりが丘）について、参加者負担の材料費の内訳を教えてほしい。

○事業係長

材料費内訳は備考欄に記載してある。個々の値段については、次回、詳細を報告する。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

■8月18日（月）に激しい雨と落雷に伴い、保谷駅前公民館が約2時間の全館停電となった。電気が復旧するまでの間、暗い館内でランタンの明かりを頼りに35名の利用者が待機した。幸い体調を崩された方はいなかったが、設備の点検等があり、夜間の団体利用は中止とした。同ビルの保谷駅前図書館は、休館日であったため、公民館のみの対応を行った。

■9月から12月にかけて4公民館（柳沢・芝久保・谷戸・ひばりが丘）において、改修工事に伴う、臨時休館を行う。

■会計年度任用職員専門員（田無公民館）が1名退職された。10月の採用に向けて募集を行っている。

○A委員

停電の際にトイレの使用は可能だったのか。

○分館長（保谷）

全館停電のため、水洗トイレの「流すボタン」は使用できないが、非常操作用洗浄レバーがありトイレの使用は可能であった。

(2) 公民館だより編集室報告

○事業係長

公民館だより編集室担当であるG委員が、仕事の都合のため今後会議への参加が難しい状況となつた。G委員には出席できる範囲で参加していただきつつ、もう一人担当を募集したい。

●話し合いとなりH委員が担当となる。

○B委員

●担当委員より9月1日号の公民館だより編集室会議について報告。

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

現在、9市（福生市・昭島市・小金井市・小平市・国分寺市・国立市・狛江市・東大和市・西東京市）が加盟している。

●担当委員より委員部会運営委員会について報告

●第62回東京都公民館連絡協議会研究大会（2月7日）の概要説明

●委員部会研修会（10月25日開催）の概要説明と西東京市公民館運営審議会委員の出席協力依頼

(4) 令和6年度西東京市公民館事業評価表について

○事業係長

公民館の1次評価の内容を確認していただき、9月4日及び次回の定例会後の時間で、2次評価（再評価）を行っていただきたい。その後、完成した令和6年度西東京市公民館事業評価を11月の教育委員会に提出する。

4 事務連絡及び情報交換

(1) 令和7年度第1回利用者懇談会について

○A委員

各館の利用者懇談会において、公民館運営審議会委員の出席協力依頼

(2) 公民館運営審議会紹介紙について

○A委員

第13期公民館運営審議会紹介紙を利用者懇談会で配架して、公民館運営審議委員の役割や活動

内容を伝えることができたら良いと考えている。

(3)その他

○事業係長

公共施設予約管理システムの、利用団体が予約システムで押さえられる月間の随時予約枠数について意見を聴取。

●予約団体に偏りがみられる現状において、普段の活動に支障がない範囲（週2回2コマ連続で5週ある月でも足りるという基準）で月間コマ数を設定する場合、月間20枠（抽選を合わせると月24枠）が妥当ではないかという結論となる。なお当日予約はこの20枠に含まないこととする。

(4)令和7年度第5回定例会の開催について

日時：令和7年9月17日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室